

熊本市教育振興基本計画(令和 6 年度(2024 年度)～令和 9 年度(2027 年度))

令和 6 年度（2024 年度）実施計画

熊本市教育委員会

目次

熊本市教育振興基本計画の体系	3
基本方針（１）主体的に考え行動する力を育む教育の推進	4
施策の方向性① 豊かな心と健やかな体を育む教育の推進	6
施策の方向性② 自ら学びに向かう力を育む教育の推進	8
施策の方向性③ 社会の形成や持続的発展に主体的に貢献する力を育む 教育の推進	10
施策の方向性④ 遊びを通して創造的な思考や主体的に行動する力を育む 幼児教育の推進.....	12
基本方針（２）こども一人ひとりを尊重した教育の推進.....	14
施策の方向性① 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実.....	16
施策の方向性② 特別支援教育をはじめとする多様な教育的ニーズに対応した支援の充実	17
施策の方向性③ インクルーシブ教育の推進.....	19
施策の方向性④ 体罰・暴言等の根絶.....	20
基本方針（３）最適な教育環境の整備.....	21
施策の方向性① 安全・安心な学校づくりの推進.....	23
施策の方向性② 働き方改革の推進	24
施策の方向性③ 学校におけるマネジメント体制の強化	26
施策の方向性④ 地域や家庭と連携した教育環境の整備	27
基本方針（４）こどものいのちと権利の擁護.....	28
施策の方向性① こどもの最善の利益を守る環境づくり	29
施策の方向性② 家庭環境に左右されない学習機会の充実	31
施策の方向性③ ライフステージに応じた継続的な支援の充実	32
施策の方向性④ こどもの権利擁護に関する理解の促進	33
基本方針（５）生涯にわたる学びの提供と学びの成果をいかす機会の創造.....	34
施策の方向性① 学びと活動の循環による環境の整備.....	35
施策の方向性② 生涯学習関連施設の機能充実	36
施策の方向性③ 青少年の健全育成	37
基本方針（６）市民が身近に親しめる文化芸術の振興	38
施策の方向性① 文化芸術活動の推進.....	39
施策の方向性② 歴史的文化遺産の調査研究、保存整備と活用	40
基本方針（７）ライフステージに応じた生涯スポーツの推進	41
施策の方向性① スポーツ機会の充実.....	42
施策の方向性② 競技力の向上	43
施策の方向性③ スポーツ施設の整備・機能充実.....	44

熊本市教育振興基本計画の体系

基本理念

豊かな人生とよりよい社会を創造するために、自ら考え主体的に行動できる人を育む

施策の基本方針		施策の方向性	
(1)	主体的に考え行動する力を育む教育の推進	①	豊かな心と健やかな体を育む教育の推進
		②	自ら学びに向かう力を育む教育の推進
		③	社会の形成や持続的発展に主体的に貢献する力を育む教育の推進
		④	遊びを通して創造的な思考や主体的に行動する力を育む幼児教育の推進
(2)	こども一人ひとりを尊重した教育の推進	①	個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実
		②	特別支援教育をはじめとする多様な教育的ニーズに対応した支援の充実
		③	インクルーシブ教育の推進
		④	体罰・暴言等の根絶
(3)	最適な教育環境の整備	①	安全・安心な学校づくりの推進
		②	働き方改革の推進
		③	学校におけるマネジメント体制の強化
		④	地域や家庭と連携した教育環境の整備
(4)	こどものいのちと権利の擁護	①	こどもの最善の利益を守る環境づくり
		②	家庭環境に左右されない学習機会の充実
		③	ライフステージに応じた継続的な支援の充実
		④	こどもの権利擁護に関する理解の促進
(5)	生涯にわたる学びの提供と学びの成果をいかす機会の創造	①	学びと活動の循環による環境の整備
		②	生涯学習関連施設の機能充実
		③	青少年の健全育成
(6)	市民が身近に親しめる文化芸術の振興	①	文化芸術活動の推進
		②	歴史的文化遺産の調査研究、保存整備と活用
(7)	ライフステージに応じた生涯スポーツの推進	①	スポーツ機会の充実
		②	競技力の向上
		③	スポーツ施設の整備・機能充実

基本方針（１）主体的に考え行動する力を育む教育の推進

○前計画期間の振り返り

児童生徒の意識調査の規範意識などに関する項目では、人が困っているとき進んで助けている児童生徒は１ポイント程度、地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある児童生徒は２．２ポイント程度、全国平均を下回っており、望ましい結果とはならなかった。

また、同調査の主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する項目で、授業で自分の考えを発表する際にうまく伝わるよう工夫したかや、課題解決に向け、自分で考え自ら取り組んだか等の点で、小学６年生は１．５ポイント、中学３年生は７．２ポイントと全国平均を下回っているほか、中学３年生では、全国平均との差が更に広がる傾向が見られたため、授業改善の課題が残った。

市立幼稚園において、こども（幼児）が自分の思いを表現し意欲的に活動していると思う保護者の割合は、令和２年度は９６．１％、令和４年度は９７．３％と１．２ポイント増加しており、わずかに好転した。

○主な検証指標

検証指標		単位	基準値	実績値					検証値
			R5	R6	R7	R8	R9	R9	
人が困っているときは、進んで助けていると答えた児童生徒の割合	小	%	90.3	-	-	-	-	-	94.0
	中	%	86.2	-	-	-	-	-	90.0
授業において、課題の解決に向け、自分で考え、自分から取り組んだと思う児童生徒の割合	小	%	76.6	-	-	-	-	-	80.0
	中	%	71.8	-	-	-	-	-	80.0
学習の中で ICT 機器（タブレット・PC・タブレット端末）を活用することが有効だと感じる児童・生徒の割合	小	%	96.7	-	-	-	-	-	100
	中	%	95.2	-	-	-	-	-	100
地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある児童生徒の割合	小	%	72.8	-	-	-	-	-	77.0
	中	%	61.0	-	-	-	-	-	64.0
こども（幼児）が自分の思いを表現し、意欲的に活動していると思う保護者の割合		%	(97.3)	-	-	-	-	-	100

※基準値の括弧書きは参考値であることを表す。

○取組方針

こどもを取り巻く環境が大きく変化している中、こどもが将来の生き方や進路に夢や希望を持ち、その実現を目指して学校での生活や学びに自ら意欲的に取り組めるよう、こどもと共に魅力ある授業づくりに努めることで、豊かな人間性と健やかな体を備え、学びに向かう力を持った、主体的に考え行動できる人づくりを目指し、各施策の方向性における取組を推進します。

○関連する個別計画

熊本市立小・中学校「部活動の指針」

第２次熊本市人権教育・啓発基本計画

市立高等学校・専門学校改革基本計画

熊本市幼稚園まなび創造プログラム

施策の方向性①

豊かな心と健やかな体を育む教育の推進

○主な事業概要

1	感動・感謝する心や郷土を愛する心、いのちを大切にする心など、豊かに生きるための基盤となる道徳性を育成する教育を充実させます。
2	人権やいのちに関する理解を深め、豊かな人間性や人権感覚を育て、自分や他の人を大切にし、それが具体的な態度や行動に現れるような人権教育を充実させます。
3	学校における性に関する指導を充実させ、科学的知見に基づく正しい理解や性の多様性の理解促進による人権意識の醸成を図るなど、いのちを大切にする教育を推進します。
4	生涯にわたって健康な生活を送ることができるよう、こどもの基本的な生活習慣を育成するとともに、食育を推進します。
5	運動の楽しさに触れ、運動習慣の確立につながるような取組を進め、こどもの体力の向上を図ります。

○前年度の主な実績

(R7 実施計画策定時に入力)

○検証指標、実績値の状況

事業概要	検証指標		単位	基準値	実績値					検証値
				R5	R6	R7	R8	R9	R9	
1	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると答えた児童生徒の割合	小	%	83.8	-	-	-	-	-	88.0
		中	%	85.1	-	-	-	-	-	90.0
2	人が困っているときは、進んで助けていると答えた児童生徒の割合	小	%	90.3	-	-	-	-	-	94.0
		中	%	86.2						90.0
3	各学校の実態に応じた性に関する指導の年間計画に基づく実施状況（8割以上実施した学校の割合）		%	76.8	-	-	-	-	-	85.0
	性的マイノリティに関する人権問題についての学習状況	小	%	(57.6)	-	-	-	-	-	65.0
		中	%	(88.4)	-	-	-	-	-	95.0

基本方針（１）主体的に考え行動する力を育む教育の推進

4	1 週間あたりの朝食について、「食べない」と答えた児童生徒の割合	小 5	%	1.2	-	-	-	-	0
		中 2	%	2.5	-	-	-	-	0
5	全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の全国との比較（全国平均を 50 とした値）	小 5 男子	-	(49.4)	-	-	-	-	50
		小 5 女子	-	(49.5)	-	-	-	-	50
		中 2 男子	-	(49.9)	-	-	-	-	50
		中 2 女子	-	(50.2)	-	-	-	-	50

※基準値の括弧書きは参考値であることを表す。

○主な事業の現状と課題、今後の方向性

事業名	現状と課題	今後の方向性
(R7 実施計画作成時に入力)		

施策の方向性②

自ら学びに向かう力を育む教育の推進

○主な事業概要

1	各教科や特別活動等の学校教育全体を通じて子ども一人ひとりの意欲・関心を最大限尊重するとともに、主体的に社会の課題を解決できる力を育む取組を推進します。
2	I C Tの活用により、児童・生徒一人ひとりの学習状況に沿った支援を行うとともに、図書の活用により、読書活動や調べ学習を充実させ、主体的に学ぶ力を育みます。
3	それぞれの中学校区に応じた小中一貫教育や幼小中の連携を推進することにより、学力向上と児童生徒指導の充実を図ります。
4	校内研修や派遣研修などを実施するとともに、教員などの資質向上に関する指標を活用した教職員の育成を強化し、教職員の指導力の向上を図ります。
5	若手教員の育成、学校内外での研修の充実など、教員の指導力を強化します。
6	児童生徒の英語力や教員の英語指導力の向上につながる教員研修の充実や、小学校における重点的な外国語教育を推進します。
7	デジタル社会の善き担い手を目指し、デジタル・シティズンシップ教育の充実を図ります。

○前年度の主な実績

(R7 実施計画策定時に入力)

○検証指標、実績値の状況

事業 概要	検証指標		単 位	基準値	実績値					検証値
				R5	R6	R7	R8	R9	R9	
1	授業において、課題の解決に向け、自分で考え、自分から取り組んだと思う児童生徒の割合	小	%	76.6	-	-	-	-	80.0	
		中	%	71.8	-	-	-	-	80.0	
2	ドリルソフトの単元テストやその他デジタル教材等で児童・生徒の学習状況、理解度を把握していると回答する教員の割合	小	%	(91)	-	-	-	-	100	
		中	%	(97)	-	-	-	-	100	

2	児童・生徒の学習状況から、それぞれに応じた学習課題を設定するという対応をとっていると回答する教員の割合	小	%	(94)	-	-	-	-	100
		中	%	(86)					100
	ドリルソフトやその他のアプリを活用することで、学習内容が理解できるようになったと感じる児童・生徒の割合	小	%	(78)	-	-	-	-	80
		中	%	(71)	-	-	-	-	80
	学習の中で ICT 機器（タブレット PC・タブレット端末）を活用することが有効だと感じる児童・生徒の割合	小	%	96.7	-	-	-	-	100
		中	%	95.2	-	-	-	-	100
	「本を読むのが好き」（電子図書を含む）と答えたこどもの割合	小	%	87.0					90
		中	%	74.3					80
3	中学校入学時に、小学校と中学校の違いに戸惑いを感じなかった生徒の割合		%	30.0	-	-	-	-	35.0
4	授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っている学校の割合	小	%	96.8	-	-	-	-	100
		中	%	95.3	-	-	-	-	100
5	授業力向上支援員の派遣回数（小・中）		回	670	-	-	-	-	700
6	中学３年生のうち CEFR A1 レベル（英検３級）相当以上の割合		%	(57.2)	-	-	-	-	60
7	デジタル技術を活用した自らの学習・行動が、地域や社会をよくすることにつながったと感じた児童・生徒の割合	小	%	(72.8)	-	-	-	-	100
		中	%	(61.0)	-	-	-	-	100

※基準値の括弧書きは参考値であることを表す。

○主な事業の現状と課題、今後の方向性

事業名	現状と課題	今後の方向性
(R7 実施計画作成時に入力)		

施策の方向性③

社会の形成や持続的発展に主体的に貢献する力を育む 教育の推進

○主な事業概要

1	各学校の活動を持続可能な開発のための教育（ＥＳＤ）の視点で捉え直し、社会の担い手を育み、学校や地域の更なる活性化を推進します。
2	社会的・職業的自立に向けた力などを育むために、民間企業等との連携によるキャリア教育、自然体験や勤労体験などの体験的学習を充実させます。
3	必由館高校、千原台高校、総合ビジネス専門学校の独自性と専門性を高め、市立高等学校・専門学校改革基本計画に基づき、生徒と共に「市立ならではの」魅力ある学校づくりを推進し、地域社会に貢献できる力を育みます。
4	自分たちの決まりは、自分たちで作って、自分たちで守るという民主主義の基本を身に付けながら、自ら判断し行動できるよう、校則の見直しに取り組みます。

○前年度の主な実績

(R7 実施計画策定時に入力)

○検証指標、実績値の状況

事業 概要	検証指標		単 位	基準値	実績値					検証値
				R5	R6	R7	R8	R9	R9	
1	地域や社会をよくするために何 をすべきかを考えることがある 児童生徒の割合	小	%	72.8	-	-	-	-	77.0	
		中	%	61.0	-	-	-	-	64.0	
2	ナイストライ事業で職場体験を実施し た生徒のうち、人や地域のために貢献 することの大切さを学ぶことができた と回答した生徒の割合		%	96.9	-	-	-	-	98.0	
3	自分は責任がある社会の一員だと思う 生徒の割合		%	調査中	-	-	-	-	5%向上	
	自分の行動で、国や社会を変えられる と思う生徒の割合		%	調査中	-	-	-	-	5%向上	
	国や社会に役立つことをしたいと思う 生徒の割合		%	調査中	-	-	-	-	5%向上	

基本方針（１）主体的に考え行動する力を育む教育の推進

4	校則の見直しにおいて、「意見を伝える機会があった」と答えた児童生徒の割合	%	調査中	-	-	-	-	80
	校則の見直しにおいて、「意見を伝える機会があった」と答えた保護者の割合	%	調査中	-	-	-	-	60
	校則の見直しにおいて、「意見を伝える機会があった」と答えた教職員の割合	%	調査中					90

○主な事業の現状と課題、今後の方向性

事業名	現状と課題	今後の方向性
(R7 実施計画作成時に入力)		

施策の方向性④

遊びを通して創造的な思考や主体的に行動する力を育む 幼児教育の推進

○主な事業概要

1	遊びを通して幼児が最後までやり抜く力や協働する力を育むとともに、幼児が集団の中で自己を発揮し探究し続ける、創造的な思考と主体的に行動できる力を育みます。
2	幼稚園と小学校の設置者が同じという特性を生かして幼小連携の取組の中心的役割を担い、幼小連携をさらに充実させます。
3	特別な配慮を必要とする幼児にきめ細かに対応するため、全ての教職員の専門性の向上に努め、教育と福祉の連携を強化して切れ目のない支援を行います。
4	児童館や保育施設等での遊びを通して、幼児や児童の自主性、社会性及び創造性を高め、地域における健全育成活動の推進を図ります。

○前年度の主な実績

(R7 実施計画策定時に入力)

○検証指標、実績値の状況

事業概要	検証指標	単位	基準値	実績値					検証値
			R5	R6	R7	R8	R9	R9	R9
1	こども（幼児）が自分の思いを表現し、意欲的に活動していると思う保護者の割合	%	(97.3)	-	-	-	-	-	100
2	幼小中連携カリキュラムの中に、幼児教育施設の「めざすこども像」等を含めて計画している中学校区の数	校 区	20	-	-	-	-	-	42
3	市立幼稚園の要配慮園児の個別の支援計画等の作成率	%	86	-	-	-	-	-	100
	特別支援教育にかかる研修（オンライン研修含む）を受けた教員の割合	%	調査中						100
4	児童館は楽しいと思うこどもの割合	%	92	-	-	-	-	-	100

※基準値の括弧書きは参考値であることを表す。

○主な事業の現状と課題、今後の方向性

事業名	現状と課題	今後の方向性
(R7 実施計画作成時に入力)		

基本方針（２）こども一人ひとりを尊重した教育の推進

○前計画期間の振り返り

個別最適な学び・協働的な学びに関する児童生徒の意識調査によると、授業において自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていると思う児童生徒は、小学６年生は１．５ポイント、中学３年生は４．９ポイントと全国平均を下回っており、改善の余地がある結果となった。

学校内外の機関等で社会的自立に向けた専門的な相談・指導等を受けていない長期欠席児童生徒を減らすために、オンラインによる不登校対策等を実施した。教員による体罰・暴言等については、こどもや保護者等の相談を基に調査した後、体罰等審議会において認定を行っており、根絶には至らなかったものの件数は減少した。

○主な検証指標

検証指標		単 位	基準値	実績値					検証値
			R5	R6	R7	R8	R9	R9	
学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることが出来ていると思う児童生徒の割合（小学6年生、中学3年生）	小	%	81.8	-	-	-	-	85.0	
	中	%	77.7					80.0	
学校内外の機関等で相談・指導などを受けていない長期欠席児童生徒の割合	小	%	(40.6)	-	-	-	-	20.0	
	中	%	(38.0)	-	-	-	-	20.0	
配慮を必要とする児童生徒の共に学ぶための支援方法を検討するケース会議等の実施回数		回	(2,064)	-	-	-	-	2,500	
体罰等審議会における体罰・暴言等の認定件数		件	18	-	-	-	-	10	

※基準値の括弧書きは参考値であることを表す。

○取組方針

こども一人ひとりの教育的ニーズに合わせた指導・支援の充実を目指すとともに、共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための教育を推進します。

また、こどもの人権を尊重し、教員がこどもと向き合いながら、いじめや不登校の未然防止、体罰・暴言などの不適切な指導の防止に努め、早期対応を図るとともに、不登校や特別な支援を必要とするこども一人ひとりの将来の自立と社会参加に向けた学びの充実を図るため、以下の取組を推進します。各施策の方向性における取組を推進します。

○関連する個別計画

第２次特別支援教育推進計画

施策の方向性①

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

○主な事業概要

1	個に応じた授業の実施やタブレット学習支援アプリの活用等により、児童生徒一人ひとりの学習状況に沿った支援を行います。
2	ICT 機器を効果的に活用しながら、指導の個別化と学習の個性化による個別最適な学びと、探究的な学習や体験活動等を通じた他者と協働する学びを、一体的に充実させます。
3	少人数学級や少人数指導など、こどもの実態や個に応じたきめ細かな指導を実施します。

○前年度の主な実績

(R7 実施計画策定時に入力)

○検証指標、実績値の状況

事業概要	検証指標		単位	基準値	実績値					検証値
				R5	R6	R7	R8	R9	R9	
1・3	授業において、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていると思う児童生徒の割合	小	%	81.6	-	-	-	-	83.0	
		中	%	68.6					75.0	
2	学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることが出来ていると思う児童生徒の割合（小学6年生、中学3年生）	小	%	81.8	-	-	-	-	85.0	
		中	%	77.7					80.0	

○主な事業の現状と課題、今後の方向性

事業名	現状と課題	今後の方向性
(R7 実施計画作成時に入力)		

施策の方向性②

特別支援教育をはじめとする多様な教育的ニーズに対応した支援の充実

○主な事業概要

1	特別な教育的支援を要するこどもに適切な支援を行うため、全ての教職員の専門性の向上に努め、個別の指導計画等を活用した指導・支援及び校内支援体制の充実を図ります。
2	こどものニーズに沿った多様な学びの場の整備を進めるとともに、通常の学級、通級指導教室、特別支援学級、特別支援学校等の指導・支援の充実を図ります。
3	いじめや不登校のほか、こどもや保護者の悩みごとの相談に対して、教員とスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどの専門家との連携を図りながら、相談体制を強化し、課題解決に取り組めます。
4	こどもの変化にいち早く気づき、対応する学校の体制づくりや家庭と学校の連携体制等について強化します。
5	外国にルーツを持つこどもへの日本語指導の充実を図ります。
6	フリースクール等との情報交換・連携を実施します。

○前年度の主な実績

(R7 実施計画策定時に入力)

○検証指標、実績値の状況

事業概要	検証指標	単位	基準値	実績値					検証値
			R5	R6	R7	R8	R9	R9	R9
1	小中学校の通常の学級在籍の要配慮児童生徒の個別の指導計画等の作成率	%	77.3	-	-	-	-	-	100
	特別支援教育にかかる研修（オンライン研修含む）を受けた教員の割合	%	調査中	-	-	-	-	-	100
2	通級指導教室の設置校数	校	34	-	-	-	-	-	44
3・6	学校内外の機関等で相談・指導などを受けていない長期欠席児童生徒の割合	小	%	(40.6)	-	-	-	-	20.0
		中	%	(38.0)	-	-	-	-	20.0

基本方針（２）こども一人ひとりを尊重した教育の推進

3	いじめを受けた児童生徒のうち、誰にも話していない児童生徒の割合（自分で解決できる。周りが解決してくれる。を除く。）	小	%	28.3	-	-	-	-	0
		中	%	17.2	-	-	-	-	0
4	こどものサイン発見チェックリスト(家庭用)の活用回数	回		1	-	-	-	-	3
5	日本語指導受入れ対応児童生徒の延べ人数	人		87	-	-	-	-	90

※基準値の括弧書きは参考値であることを表す。

○主な事業の現状と課題、今後の方向性

事業名	現状と課題	今後の方向性
(R7 実施計画作成時に入力)		

施策の方向性③

インクルーシブ教育の推進

○主な事業概要

1	共生社会の実現に向けて、障がいのあるこどもや外国にルーツを持つこどもなどが共に学ぶ教育を推進します。
---	--

○前年度の主な実績

(R7 実施計画策定時に入力)

○検証指標、実績値の状況

事業概要	検証指標	単位	基準値	実績値					検証値
			R5	R6	R7	R8	R9		R9
1	配慮を必要とする児童生徒の共に学ぶための支援方法を検討するケース会議等の実施回数	回	(2,064)	-	-	-	-		2,500
	日本語指導受入れ対応児童生徒の延べ人数	人	87	-	-	-	-		90
	授業時間において、自校以外の様々な学校等と共に学ぶ交流をしている学校の割合	%	調査中	-	-	-	-		100
	授業時間において、学年を超えて共に学ぶ交流をしている学校の割合	%	調査中	-	-	-	-		100

※基準値の括弧書きは参考値であることを表す。

○主な事業の現状と課題、今後の方向性

事業名	現状と課題	今後の方向性
(R7 実施計画作成時に入力)		

施策の方向性④

体罰・暴言等の根絶

○主な事業概要

1	児童・生徒が安心して学校生活を送れるよう、教職員による体罰禁止の徹底と暴言等不適切な指導の防止を徹底します。
2	学校現場における体罰・暴言等、こどもの権利侵害事案に対する再発防止と迅速・適切な事後対応策を実施します。

○前年度の主な実績

(R7 実施計画策定時に入力)

○検証指標、実績値の状況

事業概要	検証指標	単位	基準値	実績値					検証値
			R5	R6	R7	R8	R9		R9
1・2	体罰等審議会における体罰・暴言等の認定件数	件	18	-	-	-	-		10

○主な事業の現状と課題、今後の方向性

事業名	現状と課題	今後の方向性
(R7 実施計画作成時に入力)		

基本方針（３）最適な教育環境の整備

○前計画期間の振り返り

安全・安心を確保しつつ快適な学習・生活空間を実現するため、令和２年度に１０か年計画であるトイレ洋式化整備計画を策定し、令和５年９月１日時点で４９％進捗し、目標を上回った。

学校における働き方改革は、その成果は着実に表れているものの、正規の勤務時間外の在校時間が１か月８０時間を超える教職員は令和４年度が２３０名であり、依然として長時間勤務を行っている教職員も多い。地域人材を活用する学校支援ボランティアが新型コロナウイルス感染症の影響で減少した後、元の水準まで戻っていないなど、地域との連携・協力については改善の余地がある。

○主な検証指標

検証指標		単位	基準値	実績値					検証値
			R5	R6	R7	R8	R9		R9
トイレ洋式化整備計画（１０か年計画）の進捗率		%	49	-	-	-	-		73
正規の勤務時間外の在校時間が１か月８０時間を超える教職員数		人	(230)	-	-	-	-		0
児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している学校の割合	小	%	91.3	-	-	-	-		100
	中	%	97.7	-	-	-	-		100
学校が家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思う保護者の割合		%	(76.4)	-	-	-	-		80.0

※基準値の括弧書きは参考値であることを表す。

○取組方針

学校・家庭・地域の連携や学校のマネジメント体制の強化、教職員の働き方改革を進めながら、こどもが安全に安心して学ぶことのできる最適な教育環境を整備するため、各施策の方向性における取組を推進します。

○関連する個別計画

天明校区施設一体型義務教育学校基本計画

学校改革！教職員の時間創造プログラム

学校施設長寿命化計画

トイレ洋式化整備計画

施策の方向性①

安全・安心な学校づくりの推進

○主な事業概要

1	校舎、体育館、トイレ等の計画的な老朽化対策、施設・設備の改善を図ることにより、安全で良好な学習環境を整備します。
2	学校内外におけるこどもの安全確保を図るため、学校はもとより、教育委員会、道路管理者、警察など関係機関と連携して通学路の点検や整備を実施し、保護者や地域住民が連携して交通安全確保に取り組むなど、地域ぐるみでこどもの安全を守る環境の整備を進めるとともに、防災教育などの安全教育を充実します。
3	校区内の安全マップを作成・活用し、小中学校への防犯カメラの設置を推進します。
4	こどもが自ら危険を回避する力を身につけられるような指導を実施します。

○前年度の主な実績

(R7 実施計画策定時に入力)

○検証指標、実績値の状況

事業概要	検証指標	単位	基準値	実績値					検証値
			R5	R6	R7	R8	R9	R9	R9
1	トイレ洋式化整備計画（10 か年計画）の進捗率	%	49	-	-	-	-	-	73
2	小中学校における交通安全教室の実施率	%	73.3	-	-	-	-	-	85
3	防犯カメラシステム設置計画の進捗率	%	64.8	-	-	-	-	-	100
4	小中学校における防災教室の実施率	%	83.0	-	-	-	-	-	90

○主な事業の現状と課題、今後の方向性

事業名	現状と課題	今後の方向性
(R7 実施計画作成時に入力)		

施策の方向性②

働き方改革の推進

○主な事業概要

1	「学校改革！教職員の時間創造プログラム」を着実に推進し、ゆとりをもってこどもと向き合える環境をつくれます。
2	質の高い人材の確保・育成を進めます。また、女性管理職の登用を推進します。
3	学校部活動について、こどものスポーツ・文化芸術活動の充実と教職員の働き方改革の両立に取り組みます。
4	学校現場における教職員の業務実態の把握・分析及び教職員の専門性や役割分担の明確化を行い、教育 DX の推進及び多様な専門スタッフや地域の人材を効果的に活用します。
5	教科担任制の推進による質の高い教育と教員の負担軽減を図ります。

○前年度の主な実績

(R7 実施計画策定時に入力)

○検証指標、実績値の状況

事業概要	検証指標		単位	基準値	実績値					検証値
				R5	R6	R7	R8	R9	R9	
1	正規の勤務時間外の在校時間が 1 か月 80 時間を超える教職員数		人	(230)	-	-	-	-	-	0
	心のゆとりや自分の時間が増えた等と感じた教職員の割合		%	(54.2)	-	-	-	-	-	60
2	教員採用選考試験における志願者数		人	615	-	-	-	-	-	670
3	地域人材の部活動指導員数※2		人	8	-	-	-	-	-	210
4	教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていると思う学校の割合	小	%	25.0	-	-	-	-	-	43
		中	%	9.3	-	-	-	-	-	30
5	一部教科担任制を交換授業にて実施した割合		%	55.0	-	-	-	-	-	60.0

※基準値の括弧書きは参考値であることを表す。

※2 検証値については、部活動の改革についての市の方針を踏まえて再設定する。

○主な事業の現状と課題、今後の方向性

事業名	現状と課題	今後の方向性
(R7 実施計画作成時に入力)		

施策の方向性③

学校におけるマネジメント体制の強化

○主な事業概要

1	学校におけるマネジメント力を強化するための新任管理職を中心とした研修プログラムや、校務支援の充実を図るなど、効果的・効率的な学校運営を推進します。
2	家庭、学校、医療や福祉などの関係機関をつなぐスクールソーシャルワーカーの充実を図るなど、教員が児童生徒に集中できる環境を整備します。
3	保護者からの相談を受ける体制を強化するため、専門的な助言や必要な支援を行う「学校教育コンシェルジュ」等の充実を図ります。
4	弁護士などの専門家との連携により、多様な学校現場の問題への対応力を強化します。

○前年度の主な実績

(R7 実施計画策定時に入力)

○検証指標、実績値の状況

事業概要	検証指標		単位	基準値	実績値					検証値
				R5	R6	R7	R8	R9	R9	
1	児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している学校の割合	小	%	91.3	-	-	-	-	-	100
		中	%	97.7	-	-	-	-	-	100
2	スクールソーシャルワーカーの支援件数のうち問題解決及び好転した件数		件	(634)	-	-	-	-	-	1,200
3	学校教育コンシェルジュへの新規の相談のうち終結に至ったケースの割合		%	(72.5)	-	-	-	-	-	85
4	教員が学級の問題を抱えている場合、週に1回以上、ともに問題解決に当たっている学校の割合		%	60.9	-	-	-	-	-	75

※基準値の括弧書きは参考値であることを表す。

○主な事業の現状と課題、今後の方向性

事業名	現状と課題	今後の方向性
(R7 実施計画作成時に入力)		

施策の方向性④

地域や家庭と連携した教育環境の整備

○主な事業概要

1	こどもが豊かな人間関係を築き、最適な環境で学習できるよう学校規模の適正化や通学区の弾力化、義務教育学校の設置等を進めます。
2	地域の実態に応じたより良い学校運営ができるよう、学校支援ボランティア制度などの活用を通して、家庭や地域社会と連携した学校づくりを進めます。
3	家庭や地域との連携による授業や体験活動、学校行事などを行い、開かれた学校づくりを進めます。
4	地域や家庭が共に学び支え合う社会の実現に向けて、地域学校協働活動やコミュニティスクールの導入などを検討していきます。

○前年度の主な実績

(R7 実施計画策定時に入力)

○検証指標、実績値の状況

事業概要	検証指標	単位	基準値	実績値					検証値
			R5	R6	R7	R8	R9	R9	
1・3	学校が家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思う保護者の割合	%	(76.4)	-	-	-	-	-	80.0
2	園・学校の学校支援ボランティアにおける延べ活動者数	人	(20,332)	-	-	-	-	-	40,000
4	地域学校協働活動推進員を配置する学校数	校	0	-	-	-	-	-	16

※基準値の括弧書きは参考値であることを表す。

○主な事業の現状と課題、今後の方向性

事業名	現状と課題	今後の方向性
(R7 実施計画作成時に入力)		

基本方針（４）こどものいのちと権利の擁護

○前計画期間の振り返り

こどもを取り巻く問題は複雑多岐にわたるため、課題に迅速かつ丁寧に対応できるよう、こどもに関する総合的な施策の全庁的な取組のけん引役として、令和５年４月に「こども局」を新設した。同時に、学校内外で生じたいじめや体罰・暴言等、こどもの権利を侵害する事案について、こどもや保護者などから相談を受け、対応を行う「こどもホットライン」を開設した。

また、こどもの学習機会の確保と充実を図るため、放課後学習教室の開催校数を拡充しており、令和４年度は７校で開催した。障がい又は障がいの疑いのあるこどもの個々の発達に応じた適切な支援を講じるため、こども発達支援センターにおいて医師を始めとした様々な分野の専門職による相談、検査、初期の療育相談等を行っているが、相談のニーズは増加傾向にあるため、検査実施までの待機期間が長期化している。

こどもの権利が守られていると感じる市民の割合は、令和２年度は５２．４％、令和４年度は４６．６％と５．８ポイント減少している。

○主な検証指標

検証指標	単位	基準値	実績値					検証値
		R5	R6	R7	R8	R9	R9	
こどもホットラインにおける相談件数	件	140 ※見込	-	-	-	-	-	300
放課後学習教室の開催校数	校	10	-	-	-	-	-	18
子育ての不安や困難を相談できる人や場所がある市民の割合	%	(85.7)	-	-	-	-	-	88.0
こどもの権利が守られていると感じる市民の割合	%	(43.9)	-	-	-	-	-	55.0

※基準値の括弧書きは参考値であることを表す。

○取組方針

こどもが持てる力を高めながら、将来にわたって心身ともに豊かな生活が送れるよう、それぞれの教育的ニーズに応じた場で適切な指導や支援を行うとともに、課題を抱えるこどもや家庭に迅速かつ的確に対応できるよう、各施策の方向性における取組を推進します。

○関連する個別計画

第２次熊本市特別支援教育推進計画（再掲）

熊本市人権教育・啓発基本計画

施策の方向性①

こどもの最善の利益を守る環境づくり

○主な事業概要

1	こども自身に直接関係する事項に関して、年齢や発達の程度に応じて、こどもの意見を反映する仕組みを構築します。
2	学校の内外を問わず、こども本人や保護者等から、こどもの権利侵害に関する相談を受け付け、課題の解決を図ることで、こどもの権利を守ります。
3	生活に困難を抱えるこどもや保護者を必要な支援につなぐため、相談体制を整備するとともに、地域や関係機関との連携強化を図ります。
4	児童虐待の発生予防及び早期発見・早期対応を図るため、より専門性の高い相談体制を構築します。
5	家庭での養育が困難なこどもに対する家庭的な養育環境の整備を図ります。
6	こどもの孤立化を防止するため、地域や関係機関と連携し、こどもの居場所づくりに取り組みます。
7	障がい又は障がいの疑いのあるこどもに関する相談、診察、検査、初期の療育などの支援を行います。
8	児童生徒の自殺を防止する施策を推進します。

○前年度の主な実績

(R7 実施計画策定時に入力)

○検証指標、実績値の状況

事業概要	検証指標		単位	基準値	実績値					検証値
				R5	R6	R7	R8	R9	R9	
1	学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるようにしている学校の割合	小	%	38.0	-	-	-	-	60.0	
		中	%	23.3	-	-	-	-	57.0	
2	こどもホットラインにおける相談件数		件	140 ※見込	-	-	-	-	300	
3	子育ての不安や困難を相談できる人や場所がある市民の割合		%	(85.7)	-	-	-	-	88.0	
4	児童虐待を相談できる人や場所を知っている市民の割合		%	(78.3)	-	-	-	-	85.0	

5	登録里親数（世帯）	世帯	139	-	-	-	-	224
6	市内こども食堂設置団体数	団体	59	-	-	-	-	95
	こどもの居場所設置数	箇所	1	-	-	-	-	5
7	こども発達支援センターにおける相談支援件数	人	10,000	-	-	-	-	11,000
8	ゲートキーパー養成研修受講者数	人	(2,168)	-	-	-	-	250/年
	若者版ゲートキーパー養成実施回数	回	2	-	-	-	-	2

※基準値の括弧書きは参考値であることを表す。

○主な事業の現状と課題、今後の方向性

事業名	現状と課題	今後の方向性
(R7 実施計画作成時に入力)		

施策の方向性②

家庭環境に左右されない学習機会の充実

○主な事業概要

1	学習機会の充実を図り、社会を生き抜く力を育むための支援を行います。
2	教育に要する経済的負担の軽減に取り組みます。

○前年度の主な実績

(R7 実施計画策定時に入力)

○検証指標、実績値の状況

事業概要	検証指標		単位	基準値	実績値					検証値
				R5	R6	R7	R8	R9		R9
1	放課後学習教室の開催校数		校	10	-	-	-	-		18
2	将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合	小	%	80.8	-	-	-	-		85.0
		中	%	64.9	-	-	-	-		70.0

○主な事業の現状と課題、今後の方向性

事業名	現状と課題	今後の方向性
(R7 実施計画作成時に入力)		

施策の方向性③

ライフステージに応じた継続的な支援の充実

○主な事業概要

1	特別な支援を要するこどものライフステージに応じた切れ目のない支援を行うため、発達や育児に関する相談、初期療育の支援、就学に関する相談、卒業後の進学や就労の支援等、教育と福祉のみならず、労働などの関係機関との連携の充実を図ります。
---	--

○前年度の主な実績

(R7 実施計画策定時に入力)

○検証指標、実績値の状況

事業概要	検証指標	単位	基準値	実績値					検証値
			R5	R6	R7	R8	R9	R9	R9
1	子育ての不安や困難を相談できる人や場所がある市民の割合	%	(85.7)	-	-	-	-	-	88.0

○主な事業の現状と課題、今後の方向性

事業名	現状と課題	今後の方向性
(R7 実施計画作成時に入力)		

施策の方向性④

こどもの権利擁護に関する理解の促進

○主な事業概要

1	教職員、保護者や子ども自身及び市民全体に対して、こどもの権利擁護に関する正しい知識を普及・啓発するため、広報誌やホームページ等のほか、民生・児童委員をはじめとする地域と連携して周知に取り組むとともに、教職員の人権研修の推進や子ども自身がこどもの権利について学ぶ授業の提案等に取り組みます。
---	--

○前年度の主な実績

(R7 実施計画策定時に入力)

○検証指標、実績値の状況

事業概要	検証指標	単位	基準値	実績値					検証値
			R5	R6	R7	R8	R9		R9
1	こどもの権利が守られていると感じる市民の割合	%	(43.9)	-	-	-	-		55.0

※基準値の括弧書きは参考値であることを表す。

○主な事業の現状と課題、今後の方向性

事業名	現状と課題	今後の方向性
(R7 実施計画作成時に入力)		

基本方針（５）

生涯にわたる学びの提供と学びの成果をいかす機会の創造

○前計画期間の振り返り

生涯学習が自らの向上に役立ったと思う市民の割合は、令和５年度では６８．４％であり、上昇の余地がある。

市立図書館においては、各図書館や公民館図書室における機能や利用傾向等を考慮しながら一元的に選書購入を行うことで、貸出冊数は５１万冊増加し、着実に目標値に近付いた。熊本博物館においては、市民の関心がより高まるよう運営面、内容面での充実を図り、入館者数はコロナ禍前よりも増加するという成果が表れた。校区青少年健全育成協議会等への助成を行い、地域における青少年健全育成活動を支援し、参加者数は約３２，７００人増加するという良好な結果となった。

○主な検証指標

検証指標	単位	基準値	実績値					検証値
		R5	R6	R7	R8	R9	R9	R9
生涯学習が自らの向上に役立ったと思う市民の割合	%	(68.4)	-	-	-	-	-	77.0
図書館、公民館図書室等からの貸出冊数	万冊	(281)	-	-	-	-	-	300
地域における青少年健全育成活動への参加者数	人	(58,939)	-	-	-	-	-	85,000

※基準値の括弧書きは参考値であることを表す。

○取組方針

市民一人ひとりが心豊かな人生を送れるよう、乳幼児期から高齢期まで各ライフステージの特徴に応じた学習内容の充実を図るとともに、その成果を地域にいかすことができる社会づくりを進めます。また、地域や学校をはじめとする豊かなつながりの中で家庭教育が行われるよう、親子の育ちを応援する学習機会を充実するとともに、市民と協働による家庭教育支援を強化します。これらの方針に基づき、各施策の方向性における取組を推進します。

○関連する個別計画

熊本市生涯学習推進計画

施策の方向性①

学びと活動の循環による環境の整備

○主な事業概要

1	市民一人ひとりが豊かな人生を送ることができるよう、生涯学習による「学びと活動の循環」の仕組みを構築します。
2	熊本市生涯学習情報システムを活用した生涯学習情報の発信力を強化します。
3	地域の特性を生かした講座や、公民館などの生涯学習関連施設の機能を活用した様々な世代の学び直しを支援するセミナーなど、多彩で体系的な学習機会を提供します。
4	I C Tを活用した学習機会の提供を進め、生涯学習関連施設に出向くことが難しい人でも学習できるよう、学習環境を整備します。

○前年度の主な実績

(R7 実施計画策定時に入力)

○検証指標、実績値の状況

事業概要	検証指標	単位	基準値	実績値					検証値
			R5	R6	R7	R8	R9	R9	
1	生涯学習が自らの向上に役立ったと思う市民の割合	%	(68.4)	-	-	-	-	-	77.0
2	熊本市生涯学習情報システム閲覧者数	人	(10,912)	-	-	-	-	-	15,000
3	公民館利用者数	人	(401,504)	-	-	-	-	-	700,000
4	オンラインでも参加できる講座等の開催	回	(29)	-	-	-	-	-	44

※基準値の括弧書きは参考値であることを表す。

○主な事業の現状と課題、今後の方向性

事業名	現状と課題	今後の方向性
(R7 実施計画作成時に入力)		

施策の方向性②

生涯学習関連施設の機能充実

○主な事業概要

1	紙の蔵書について、市民の要望や社会の要請、地域の実情等を反映できるよう、各図書館・図書室等の機能及び利用傾向等を考慮し、それぞれの施設の特性に応じた蔵書の構成の更なる充実に取り組みます。
2	電子書籍について、誰もがいつでも、どこでも読書ができるよう、コンテンツの充実を図ります。
3	図書館のサービス向上に取り組むため、次期図書管理システムの更新において、より利用しやすいシステムを構築します。
4	博物館の運営や活動の充実と向上を図り、社会教育施設としての機能を高めます。また、特別展・企画展の開催や、学校教育、関連施設との連携により魅力ある博物館をつくります。

○前年度の主な実績

(R7 実施計画策定時に入力)

○検証指標、実績値の状況

事業概要	検証指標	単位	基準値	実績値					検証値
			R5	R6	R7	R8	R9	R9	R9
1・3	図書館、公民館図書室等からの貸出冊数	万冊	(281)	-	-	-	-	-	300
2	電子書籍の貸出点数	点	(289,539)	-	-	-	-	-	300,000
4	熊本博物館の来館者数	万人	(9.3)	-	-	-	-	-	12

※基準値の括弧書きは参考値であることを表す。

○主な事業の現状と課題、今後の方向性

事業名	現状と課題	今後の方向性
(R7 実施計画作成時に入力)		

施策の方向性③

青少年の健全育成

○主な事業概要

1	家庭教育を推進する地域人材の育成と、活躍できる場の提供に取り組むとともに、地域学校協働活動等の検討を進める中で、関係機関・団体等との連携により、家庭教育支援の充実を図ります。
2	児童の放課後等の居場所について、安全・安心に過ごすため、児童育成クラブの充実を図るとともに、こどもの実情に応じた活動の場のあり方を検討します。
3	地域住民が青少年の健全育成活動に参加できるよう支援します。

○前年度の主な実績

(R7 実施計画策定時に入力)

○検証指標、実績値の状況

事業概要	検証指標	単位	基準値	実績値					検証値
			R5	R6	R7	R8	R9	R9	
1	家庭教育セミナーの実施回数	団体・グループ	12						48
2	児童育成クラブ利用者の満足度	%	調査中						80
3	地域における青少年健全育成活動への参加者数	人	(58,939)						85,000

※基準値の括弧書きは参考値であることを表す。

○主な事業の現状と課題、今後の方向性

事業名	現状と課題	今後の方向性
(R7 実施計画作成時に入力)		

基本方針（６）市民が身近に親しめる文化芸術の振興

○前計画期間の振り返り

令和２年度に地元アーティストの活動発表の場と鑑賞機会を創出するため、「アーティストスポット 熊本」を開始し、アーティストの活動の場の拡大に取り組んだほか、学校へ出張公演を行うなど、文化芸術に触れる機会を増やす取組を実施した結果、文化に親しんでいる市民の割合は毎年１ポイント程度上昇した。

○主な検証指標

検証指標	単位	基準値	実績値					検証値
		R5	R6	R7	R8	R9	R9	
文化に親しんでいる市民の割合	%	(30.5)						40

※「文化に親しんでいる」とは、コンサートや演劇・映画等の鑑賞、音楽・美術・お茶やお花・踊りなどの習い事、公民館講座等への参加、短歌や俳句を詠む、小説を書く、文化芸術活動の指導を行っている、また熊本城をはじめとする文化財や地域に残る文化資源、記念館・博物館・美術館・図書館等を訪れる、などを指す。以下、本実施計画において同じ。

※基準値の括弧書きは参考値であることを表す。

○取組方針

多様化する市民ニーズに対応した伝統文化の継承や後継者育成への支援、文化芸術の鑑賞機会の提供など文化に触れ合う機会の拡充を図るとともに、関係機関と連携し、歴史的文化遺産の調査研究、適切な保存・活用に取り組み、日々の暮らしの中で文化芸術に親しめるまちづくりを進めるため、各施策の方向性における取組を推進します。

○関連する個別計画

熊本城復旧基本計画

施策の方向性①

文化芸術活動の推進

○主な事業概要

1	文化活動の支援や文化施設等における文化芸術の発信、文化芸術が持つ多様な価値の活用等を通して、文化活動の活性化や市民が文化芸術に触れる機会の創出に努めます。
2	伝統文化の後世への伝承や、次代の担い手育成に取り組めます。

○前年度の主な実績

(R7 実施計画策定時に入力)

○検証指標、実績値の状況

事業 概要	検証指標	単 位	基準値	実績値					検証値
			R5	R6	R7	R8	R9	R9	
1	文化に親しんでいる市民の割合	%	(30.5)						40
1・2	学校等への出張公演の件数	件	(12)	-	-	-	-		20

※基準値の括弧書きは参考値であることを表す。

○主な事業の現状と課題、今後の方向性

事業名	現状と課題	今後の方向性
(R7 実施計画作成時に入力)		

施策の方向性②

歴史的文化遺産の調査研究、保存整備と活用

○主な事業概要

1	文化財の適正な調査研究と保存を行いながら、市民一人ひとりが文化に触れる機会を創出することで、その価値の認識を促すとともに、文化財を活用したまちづくりや地域の魅力向上を推進します。
---	---

○前年度の主な実績

(R7 実施計画策定時に入力)

○検証指標、実績値の状況

事業 概要	検証指標	単位	基準値	実績値					検証値
			R5	R6	R7	R8	R9	R9	
1	文化に親しんでいる市民の割合	%	(30.5)						40

※基準値の括弧書きは参考値であることを表す。

○主な事業の現状と課題、今後の方向性

事業名	現状と課題	今後の方向性
(R7 実施計画作成時に入力)		

基本方針（７）ライフステージに応じた生涯スポーツの推進

○前計画期間の振り返り

市民のスポーツ機会の充実により、週に１回以上スポーツをしている市民の割合は、令和２年度が４９．９％、令和４年度が５０．７％と０．８ポイント上昇した。また、競技団体との連携により競技力向上を目指したほか、優秀な成績を収めた選手への懸賞・激励を行い、国体出場者数は令和４年度において２３０人となった。スポーツ施設の改修や機能充実により、市民がスポーツに親しむ機会が拡充された結果、スポーツ施設利用者数は２６０万人まで増加した。

○主な検証指標

検証指標	単位	基準値	実績値					検証値
		R5	R6	R7	R8	R9	R9	R9
週１回以上（１回３０分以上）軽い運動を含むスポーツをしている市民の割合	％	(56.7)						58
国体出場者数（熊本市在住 選手・監督者数）	人	(230)	-	-	-	-	-	260
スポーツ施設利用者数	万人	(260)	-	-	-	-	-	280

※基準値の括弧書きは参考値であることを表す。

○取組方針

市民のライフステージに応じたスポーツ活動の推進と環境整備を図るため、各施策の方向性における取組を推進します。

○関連する個別計画

（仮称）熊本市スポーツ施設ストック適正化計画

施策の方向性①

スポーツ機会の充実

○主な事業概要

1	健康増進や体力の維持・向上など市民ニーズに応じて、日常的にスポーツに親しむことが出来る機会を拡充するために、校区体育・スポーツ協会や総合型地域スポーツクラブなどの地域団体によるスポーツ活動を支援します。
2	「する」「みる」「ささえる」といったスポーツへの多様な関わり方を踏まえ、スポーツイベントの開催やプロスポーツなどスポーツ情報などの提供、地域でのスポーツ活動の支援等に取り組みます。

○前年度の主な実績

(R7 実施計画策定時に入力)

○検証指標、実績値の状況

事業概要	検証指標	単位	基準値	実績値					検証値
			R5	R6	R7	R8	R9	R9	R9
1・2	週1回以上（1回30分以上）軽い運動を含むスポーツをしている市民の割合	%	(56.7)	-	-	-	-	-	58

※基準値の括弧書きは参考値であることを表す。

○主な事業の現状と課題、今後の方向性

事業名	現状と課題	今後の方向性
(R7 実施計画作成時に入力)		

施策の方向性②

競技力の向上

○主な事業概要

1	競技団体等と連携し、各種スポーツの指導者養成を支援するとともに、スポーツ愛好者から競技者までの個人の体力や技術力に応じた運動メニューの提供などを進めます。
2	市民が一流のアスリートとふれあう機会の創出やスポーツ教室の実施などにより競技力の向上を図ります。

○前年度の主な実績

(R7 実施計画策定時に入力)

○検証指標、実績値の状況

事業概要	検証指標	単位	基準値	実績値					検証値
			R5	R6	R7	R8	R9		R9
1・2	国体出場者数（熊本市在住 選手・監督者数）	人	(230)	-	-	-	-		260

※基準値の括弧書きは参考値であることを表す。

○主な事業の現状と課題、今後の方向性

事業名	現状と課題	今後の方向性
(R7 実施計画作成時に入力)		

施策の方向性③

スポーツ施設の整備・機能充実

○主な事業概要

1	多様化するスポーツに対する市民ニーズへ対応するため、スポーツ施設の機能改善や競技備品の充実に推進します。
---	--

○前年度の主な実績

(R7 実施計画策定時に入力)

○検証指標、実績値の状況

事業概要	検証指標	単位	基準値	実績値					検証値
			R5	R6	R7	R8	R9	R9	R9
1	スポーツ施設利用者数	万人	(260)	-	-	-	-	-	280

※基準値の括弧書きは参考値であることを表す。

○主な事業の現状と課題、今後の方向性

事業名	現状と課題	今後の方向性
(R7 実施計画作成時に入力)		